

## 4-11 棚田保全活動

棚田は、農業生産活動を通じ多面的な機能を発揮してきましたが、担い手の減少や高齢化の進行、厳しい地形条件などから、その維持が困難になりつつあります。そこで、将来にわたり棚田を保全していくため、地域外住民も交えた継続的な棚田保全活動を推進しています。

### 1. 棚田について

棚田とは、斜面を利用した階段状の水田のことを言います。「傾斜が1/20以上の水田が地域の1/2以上を占める地域」を棚田地域として定義しており、県内にはこの棚田地域が約2200ha(県内水田面積の4.5%)あります。

### 2. 棚田の役割

#### (1) 食料生産の場

山間地に多い棚田では、昼夜の温度差が大きいうえ、平坦地に比べて気温や水温も低く、稲がゆっくりと稔ることから、一般的に棚田のお米は味が良いと言われています。

#### (2) 洪水防止、水源かん養の役割

斜面に降った雨は、すぐに表面を流れ、河川を通じて下流へと流れていきます。しかし、斜面に水田があることで雨水を一定量溜めることができ、初期の雨水が一気に河川に流入することを防いでいます。(洪水防止)

また、水田に溜まっている雨水は、その間にゆっくりと地下に染み込んでいき、少しずつ河川に戻ったり地下水となっていきます。(水源かん養)



写真4-11-1 棚田オーナーによる田植え



写真4-11-2 ボランティアによる稲刈り

#### (3) 土砂流亡防止の役割

棚田は管理されなくなると、畦が崩れたり表面に亀裂が生じたりします。ここに多量の雨が降ると、雨水が表面の土砂を削りながら流出したり、土砂くずれが発生しやすくなります。

#### (4) 多様な生き物を育む役割

棚田地域には、山林やため池、水路、水田、畑、集落等が混在し、この多様な環境が豊かな生態系の形成につながっています。この豊かな生態系に支えられた棚田地域の景観は、日本の原風景として多くの人の心に安らぎを与えています。

### 3. 棚田の現状

米価の低迷や担い手の減少・高齢化など、農業を取りまく環境はますます厳しいものとなっています。特に棚田地域はその厳しい地形条件から、10a当たりの労働時間が平坦地の水田の3倍以上に達するという報告もあります。また、山間や標高の高いところに位置する棚田は、日照時間や気温、水温等の影響を受けやすいことに加え、野生動物による被害も受けやすいことから、単位面積あたりの収量は低い傾向にあります。このように、棚田の生産性は他地域に比べて総じて低いことから、耕作放棄地が発生しやすくなり、周辺および下流域に悪影響を及ぼすおそれが高まっています。

### 4. 棚田の保全に向けて

棚田の持つ様々な機能を持続的に発揮させるため、滋賀県では、ほ場整備や集落営農の推進による営農条件の改善、中山間地域等直接支払制度、中山間ふるさと・水と土保全推進事業(棚田基金事業)等による支援を行っています。2004(平成16)年以降、都市住民を中心とした地域外住民によるボランティアを広く募集し、草刈りや畦・農道の補修、獣害防止柵の設置などの棚田保全活動を支援しています。

受け入れ地域の中には、地域通貨制度や棚田オーナー制度などの取り組みも行われており、支援の輪をさらに広げていく必要があります。



写真4-11-3 ボランティアによる草刈り